

[課題演習概要]

論理的思考力を育てる国語科書くことの学習指導
ーロジックツリーを活用した再構成活動ー山 本 小 晴
Koharu YAMAMOTO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：国語科書くこと、論理的思考力、再構成活動、ロジックツリー

1 研究の目的

本研究はロジックツリーを活用した再構成を主軸に書く活動を通して子どもに論理的思考力の育成することを目的とする。

2 研究の計画

M1 前期	先行研究の分析による理論研究
M1 後期	教科書教材の分析・モデル文作成による論理的思考力の具体化
M2 前期	ロジックツリーを活用した再構成活動の研究 フィールドワークによる題材の開発
M2 後期	ロジックツリーを活用した再構成活動を主軸にした単元開発 授業実践・分析

3 研究の内容

(1) 論理的思考に関する理論研究

先行研究として櫻本(1995)を参考にした。櫻本は「論理的思考力に着目し、その活性化を図る指導によって、子どもの説明的表現が確かで豊かになる」と述べている。櫻本は論理的思考力を全体構造として図1のように示した。

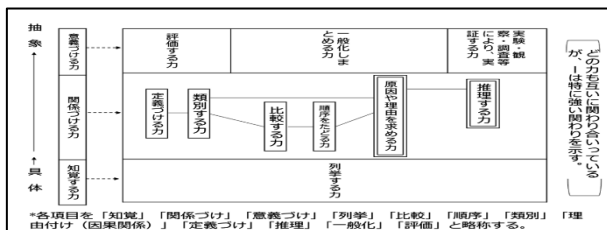


図1 論理的思考力の構造（櫻本試案）

また倉沢(1984)の文献をもとに再構成について考えた。相手にどのように受容されるのか自分のテーマや構想を再読・反復を繰り返すことで、もとの文章と再会する。そうすることで単なる書き直しではなく、自分の筋道に対して何度も構成を考えるようになり、新たな自分主体の考え方が生まれる。それが深い自己理解へ繋がるのではない。結果的にこのことは作文指導の本質であると考え副主題に設定した。

さらに、子どもが自ら思考の整理を行い、自己の論理を可視化するためにロジックツリーに着眼し、それを活用した再構成を考えた。

倉島(2014)によると、ロジックとは情報を漫然と並べただけでなく、情報が縦や横に並び構成されていると述べられている。縦接続とは原因と結果の様に、論理的な繋がりがある状態で、横並びとは原因1、原因2のように同じ種類だが独立している状態、包含とは原因が原因1や原因2を含んだ状態である。これら3つの要素を組み合わせると述べられている。

以上の内容を踏まえて、本学を題材としてリーフレットを試作した。試作にあたっては、小学校4年生を対象とした。そうすることで小学校4年生における論理的思考力の可視化・具体化を明らかにしようと考えた。

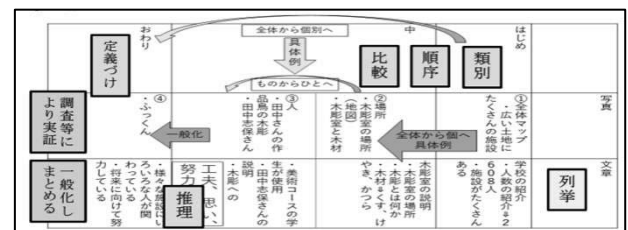


図2 リーフレット構成表に見える論理的思考

図2の構成表をロジックツリーにあてはめて作成した。すると、論理的思考を可視化することが

でき、並べ替えや入れ替えなどの操作が容易になることが分かった。

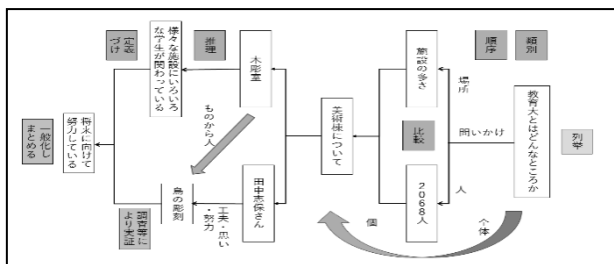


図3 ロジックツリー

ロジックツリーを導入することにより、論理的な配列や中心の置き方を容易にすることができ多様な配列を自己選択できることがわかった。

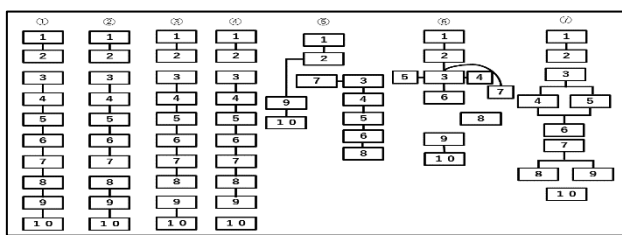
(2) 論理的思考力を育てる単元の開発

観光リーフレットを作成するにあたり、紹介する場所を4か所「宮地嶽神社、福岡海岸、ほたるの里、藍の家」に絞り、作成を行った。

単元名	院生に届け！福津市観光リーフレット
目標	
単元計画	
第1次	教材「世界にほこる和紙」を用いて、ロジックツリーをつくる。
第2次	福津市観光リーフレットを作成する。
(1)	教職大学院生に書くという目的と相手を明確にし、計画を立てる。
(2)	知らせたい場所の取材を行う。
(3)	「世界にほこる和紙」やモデル文をもとに構成（ロジックツリー）を考える。
(4)	ロジックツリーの再構成をする。
(5)	ロジックツリーをもとに、リーフレットを作成する。
第3次	リーフレットを配布し、ふり返しを行う。

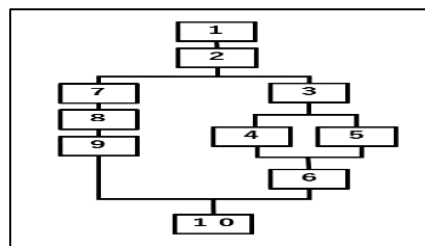
(3) 指導の実際

「世界にほこる和紙」の範読後、班でロジックツリーを作図した。



資料1 「世界にほこる和紙」初回ロジックツリー

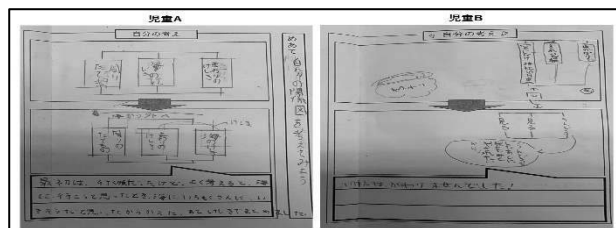
7つのロジックツリーを見比べてみると、共通点は、意味段落が変わってしまうと児童は内容がつながっていないと考えており、線が切れてしまっている。また、半数の児童が単線で繋げていることから、論理的思考力を高めるため、内容読解した後ロジックツリーの再構成を行った。すると単線ではなく、複合的に組み合わせ、論理的な読解ができている。



資料2 再構成後のロジックツリー

クツリーの作図を行った。

この学びを生かし「院生に届け！福津市観光リーフレット」では、説明部分のロジック



資料3 リーフレットのロジックツリー

児童Aの初回の構成は、横ならびだったが、再構成を行った結果、海の景色と、建物で分けており、観光客が見る順番で構成を行っている。また、児童Bはコメント欄には再構成の順番は「変わらなかった」と記述があるが、再構成後、「運動したあとに、桜をみていやされたいから」と意味付けが行われている。

4 成果と課題

成果として、ロジックツリーの組み立て方が単線から複合的に組み替えることができており、列挙する力だけでなく、順序をたどる力、比較する力、類別する力、推理する力、定義づける力、原因や理由を求める力等を身につけることができた。また、図式化することにより、部分的にロジックの組み換えができ、自分達で再構成することが可能となった。

課題としては、ロジックツリーの意味づけを行う際、手が止まるなどつまづいている児童がいたことから、個に応じた指導・支援をさらに研究することがあげられる。

主な引用・参考文献

- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説国語編』東洋館出版
- 櫻本明美(1995)『説明的表現の授業—考えて書く力を育てる—』明治図書出版株式会社
- 倉島保美(2014)『論理が伝わる世界標準の「プレゼン術」』
- 倉島保美(2012)『論理が伝わる世界標準の「書く技術」』